



わかやま

No.69

和歌山県精神保健福祉センター

2016年11月

和歌山県臨床心理士会
会長 上野 和久

「和歌山県における臨床心理士の活動」

「臨床心理士」とは、臨床心理学にもとづく知識や技術を用いて、人間の“こころ”の問題にアプローチする“心の専門家”です。日本には心の問題に取り組む職種として、心理カウンセラー、サイコセラピスト、心理相談員などの名称で呼ばれる人々がありますが、その中で「臨床心理士」は、臨床心理士指定大学院を修了後に公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が実施する試験に合格し、認定を受けることで取得できる“心理専門職の証”となる資格です。実際には、臨床心理士の資格所有者が、例えば文部科学省の実施する全国公立中学校や小学校に1996年以降よりスクールカウンセラーとして任用（派遣）され、活躍している（5,000名）のは、その代表例といえます。平成28（2016）年4月1日現在で31,291名の「臨床心理士」が認定され、和歌山県臨床心理士会において148名が登録されています。



県臨床心理士会に登録されている会員の活動職域は、教育（スクールカウンセラーや教育委員会等）、医療（病院、児童療育施設等）、司法（警察、裁判所、刑務所、少年鑑別所等）、福祉（児童相談所、乳児院、福祉施設、子育て支援施設等）、産業（事業所、私設カウンセリング室等）など多岐にわたっています。

県臨床心理士会としての活動は、県内における不登校対策の講演会実施、年に一度の臨床心理士の電話相談開設、和歌山県内公立学校・私立学校における学校緊急支援を行ってきました。また、平成23年3月11日に発生した東日本大震災に7名の会員を延べ1ヵ月学校に派遣、同じく9月2日～5日に発生した紀伊半島大水害に8名の会員を被害地域の学校や支援者（行政職員・保健師・教師等）支援に派遣し、現在も中長期支援のため2名の会員が継続支援を行っています。また、今年4月14日に発生した熊本地震においても被災地域の学校に4名の会員を派遣し、心のケア活動を行いました。その他に、犯罪被害者支援においては、学校への心のケアで現在まで4回出動しています。また、今年発生した銃撃事件による地域住民に対して、紀の国被害者支援センターと医療機関等との連携で心のケア活動を行います。

このように臨床心理士は、様々な心の専門家としての「汎用性」をもち、結果的に活動領域が広汎な対応を求められてきました。今後も人間が存在する全ての関わりへと広がっていく可能性があります。

県臨床心理士会では、県民の皆様に対する社会的責任を果たすため、日々研鑽を重ね活動を行っています。

今後の和歌山県における臨床心理士の活動の課題は、2017年より国家資格として「公認心理師」制度が動き始めます。県内の臨床心理士が公認心理師としてどのように統合し連携していくかという課題があります。もう一つの課題は、県内に臨床心理士・公認心理師の養成機関がないことです。全国で養成大学のない地域は和歌山県・滋賀県・高知県・宮崎県・三重県の5県です。このことは、紀南地方に臨床心理士が少ないことと関係します。現在は、県庁を中心に各機関とともに養成大学・学部の設置を模索しているところです。



- P1 「和歌山県における臨床心理士の活動」
- P2 シリーズセンター長だより⑧／
第13回精神障害者ソフトバレーボール和歌山県大会
- P3 わかやまこころのフェスタ2016
- P4 「ほっとする 笑顔つながる こころの絵」入賞作品
- P5 和歌山メンタルヘルスニュース（開催報告・研修会案内）
- P6 はーとふるネットワーク／編集後記



和歌山県精神保健福祉センター

〒640-8319 和歌山市手平二丁目1番2号 県民交流プラザ“和歌山ビッグ愛”2階

☎ (073) 435-5194 FAX (073) 435-5193



ケネディーのレガシー（遺産）

前回に続いて50年目の節目に関連するお話になりますが、10月15日に開催されたオハイオ州立大学ナイソンガーセンターの50周年記念パーティーに参加してきました。ここには20年前に初めてお邪魔して以来、いつもマイケル・エイメン教授のお宅に泊めていただきながら知的障害・発達障害について多くのことを勉強させていただきました。このときエイメン教授に指導していただいて作った「異常行動チェックリスト日本語版（ABC-J）」は、最近では発達障害児の行動障害の薬物療法の効果判定に広く使われるようになり、今年わが国でも自閉スペクトル障害児に適応が認められた抗精神病薬（リスパダールとエビリファイ）の治験でも主要な効果測定尺度に採用されました。

ナイソンガーセンターはオハイオ州立大学医学部に設置されたCOE（卓越した研究拠点）と呼ばれる施設で、知的障害・発達障害の臨床サービス、研究、教育を行っています。このセンターはジョン・F・ケネディー大統領が1963年に署名した連邦法「知的障害者施設と地域精神保健センター設置法（公法88-164）」にもとづいて、知的障害者の教育や支援の専門家を養成する機関として1966年に開設された、まさにケネディーのレガシーといえる施設です。折りしも激しい大統領選挙キャンペーン中で、誰と会っても話題は選挙に偏りがちでしたが、旧交を温めつつ半世紀前の偉大な大統領に思いをはせた夜でした。



50周年パーティーでエイメン教授ご夫妻と



ナイソンガーセンター外観



第13回 精神障害者
ソフトバレーボール大会

平成28年11月1日（火）第13回精神障害者ソフトバレーボール和歌山県大会を和歌山ビッグホエールで開催しました。

今大会には県内より5チームが参加し、各チーム総当たりで試合をしました。白熱した試合の結果、ブラックハーツが4勝0敗で圧勝し、優勝を決めました。みなさま、どうもお疲れ様でした。



大会成績

- 優勝 ブラックハーツ（県立こころの医療センター）
- 準優勝 ひだかファイターズ（太陽福祉会）
- 3位 GO!!Go!! さくら（地域活動支援センター櫻）
- 4位 ∞INFINITY∞（やおき福祉会）
- 5位 DREAMNOAPS（国保野上厚生総合病院・一峰会）





平成 28 年 11 月 19 日（土）和歌山ビッグホールでこころのフェスタ 2016 を開催しました。精神保健福祉センターのブースでは自助グループの案内や「ほっとする笑顔つながるこころの絵」入賞作品の展示などを行いました。

ステージイベント

■グループ活動紹介

（社福）一麦会就労支援 B 型事業所 Po-zkk（ポズック）に通うメンバーが元気いっぱい賑やかなチンドンショーを披露し、観客を楽しませていただきました。



■平成 28 年度和歌山県精神保健福祉協会会長表彰式



永年、精神保健福祉業務に従事し功績が著名な方と精神保健福祉の普及啓発や精神障害者の社会復帰に功績があった方々が和歌山県精神保健福祉協会より表彰されました。



永年勤続功労表彰

西沢 泰一 様 県立こころの医療センター

特別功労表彰

柴田 竜夫 様 社会福祉法人さのかわ福祉会

宮本 聡 様 社会福祉法人和歌山県福祉事業団

屋敷 満雄 様 南紀ひまわり家族会

藤原 朗 様 医療法人田村病院



■平成 28 年度「ほっとする笑顔つながるこころの絵」表彰式

和歌山県精神保健福祉協会では、絵をとおして改めてこころの健康に考える機会にさせていただきたいと「ほっとする 笑顔つながる こころの絵」を県民の皆さんから募集しました。

最優秀賞

竹中 愛加李 様 すさみ町立周参見中学校

優秀賞

植 萌奈愛 様 橋本市隅田小学校

宮本 悠衣 様 絵画教室ほっとチョコレート

入選

木村 厚介 様 かつらぎ町立浜田小学校

橋本 爽園 様 紀の川市立荒川中学校

高石 映子 様 印南町在住

小濱 みどり 様 麦の郷紀の川生活支援センター

川口 弘恭 様 麦の郷紀の川生活支援センター





平成28年度 ほっとする 笑顔つながる 心の絵 入賞作品

155名の方から素敵な作品をご応募頂きありがとうございました。入賞された8作品をご紹介します。



最優秀賞

竹中 愛加李 様
すさみ町立周参見中学校 2年



優秀賞

植 萌奈愛 様
橋本市立隅田小学校 1年



優秀賞

宮本 悠衣 様
絵画教室ほっとチョコレート 27歳



入選

木村 厚介 様
かつらぎ町立渋田小学校 1年



入選

橋本 爽園 様
紀の川市立荒川中学校 1年



入選

高石 映子 様
印南町在住 38歳



入選

小濱 みどり 様
麦の郷紀の川生活支援センター 42歳



入選

川口 弘恭 様
麦の郷紀の川生活支援センター 52歳



開催報告

和歌山メンタルヘルスニュース



【ひきこもり家族教室（東牟婁圏域）第2回】

平成28年8月24日（水）、東牟婁振興局地下第3会議室にて、家族教室（東牟婁圏域）第2回を開催しました。講演会では、南紀若者サポートステーションの南芳樹氏が「ひきこもりの明日を紡ぐ」という演題で、ひきこもり者の特徴や支援の際のポイントなどについて話しました。参加者は23名でした。

【ひきこもり家族教室（東牟婁圏域）第3回】

平成28年9月14日（水）、東牟婁振興局地下第3会議室にて、家族教室（東牟婁圏域）第3回を開催しました。講演会では、当センター職員が、当センターで行っている「青年のつどいフリースペース」や「ひきこもり家族のつどい」の内容や参加者の様子などについて説明しました。その後、交流会を行い、参加者が現状について話をしたり、情報交換を行いました。参加者は14名でした。

【平成28年度ひきこもり事例検討会】

平成28年10月5日（水）、麦の郷ハートフルハウス創1階会議室にて、平成28年度ひきこもり事例検討会を開催しました。麦の郷ハートフルハウス創の支援員森橋美穂氏と若者サポートステーションわかやまのリーダー・田中康之氏から事例を提出していただき、その2事例について検討しました。当センターのホームページで紹介しているひきこもり支援団体の職員14名が参加しました。

【精神保健福祉関連専門研修①】

平成28年8月31日（水）、和歌山ビッグ愛にて、「何をすることが家族の支援になるのか～精神障がいのある人の家族の支援～」というテーマで研修会を開催しました。講師の京都ノートルダム女子大学准教授の佐藤純（さとうあつし）氏には、長時間に亘り、精神保健福祉システムの現状、家族支援の課題及びコツなどについてロールプレイングを交えてご講演頂きました。家族支援の大切さを再認識するとともに家族支援のコツがイメージできました。参加者は72名でした。

【精神保健福祉関連専門研修②】

平成28年9月14日（水）、和歌山ビッグ愛にて、国立病院機構肥前精神医療センター院長の杠岳文（ゆずりはたけふみ）氏より「アルコール問題の予防と早期介入～ブリーフインターベンション～」と題してご講演頂きました。アルコール健康障害対策基本法にふれながら、アルコール問題の現状及びアルコール依存症になる前段階での介入などについて伺い、断酒しか選択肢がないと思っていた支援に、節酒が加わり、支援者にとってもモチベーションのあがる研修会でした。参加者は53名でした。



開催案内

【第1回わかやま若者・ひきこもり者支援交流集会】

開催日 平成28年12月14日（水）

場 所 和歌山ビッグ愛 201 会議室

対 象 ひきこもりや若者支援に関心のある方

定 員 60名（先着順）

■13:00～14:00 基調講演

テーマ 「地域で取り組む『ひきこもり』支援」

講 師 小野 善郎（精神保健福祉センター所長）

■14:10～15:40 シンポジウム

テーマ 「私たちの生き方・過ごし方」

聞き手 野中 康寛 氏

（麦の郷ハートフルハウス創センター長）

語り手 ひきこもり経験者2名

■16:00～17:30 グループ別交流会

【自死遺族支援関連研修】

開催日 平成28年12月17日（土）

場 所 精神保健福祉センター プレイルーム

対 象 どなたでもご参加いただけます

定 員 25名（先着順）

■12:30～13:50 講演会

テーマ 「一人で抱え込まないでね」

講 師 岩崎 順子 氏（いのちの講演家）

■14:00～14:40 箏（琴）コンサート

演奏者 こうじや ゆうおう 糀谷 有桜 氏（絃楽教育奨励会師範）

■14:50～16:30 わかちあいの会*

*わかちあいの会の参加者は、家族や友人など大切な人を自死で亡くされた方に限定します。

☆お忘れ物☆

平成28年7月26日の思春期セミナーで女性用黒色のカーディガンをお預かりしています。お心当たりのある方は、精神保健福祉センターへご連絡ください。

お問い合わせ・お申込先
和歌山県精神保健福祉センター
電話 073-435-5194
FAX 073-435-5193

精神保健福祉の第一線で働く関係スタッフの紹介コーナーです。

今回は、和歌山県立医科大学附属病院 神経精神科 精神保健福祉士 水野 未央 さんです。

はーとふるネットワーク



ー精神保健福祉士になられたきっかけは何ですか？

小さい頃から漠然と、人の話をきく仕事に就きたいなと思っていました。

大人になってから精神保健福祉士の仕事を知り、いいなと思いました。

ー病院では、具体的にどのように支援をされますか？

医大病院の中で、主に病棟業務を担当しています。

具体的には、可能な限り入院時の診察から同席させていただいて、ご本人、ご家族に、病棟に PSW という職種がいるんだよということを早期から知ってもらいます。

入院前から地域援助事業者との関わりがある場合は、ご本人の了解を得た上で情報共有を行い、必要な方には適宜ご紹介させていただきます。医大は転院、退院が半分半分かくらいということもあり、病院のソーシャルワーカーさん、地域の支援者さんのお力を借りながら一緒に退院支援を進めていくことがとても多いです。

ご本人やご家族の思いを確認しながら、カンファレンスを開いたり、院内や地域の支援者さんと連携しながら、退院を目指していきます。

ー支援に際して、困難や苦勞されることはありますか？

ご本人の自己決定を大切にしたいという PSW としての思いと、組織の人間として動くことの間、しばしば葛藤が生まれることでしょうか。これはきっと永遠のテーマだと思うので、葛藤につぶされないように、でもあきらめずにうまくと、やっていけたらいいなと思います。

困難や苦勞については、反省ばかりで書き出すときりがなく・・・今度どなたか飲み連れて行ってください(笑)

ー仕事で、よかったと思うことはありますか？

薬物依存相談実施中(完全予約制)

精神保健福祉センターでは、薬物依存症者やその家族、知人に対する相談を行っています。

【本人向け】**個別相談** SMARPP (スマープ) という物質使用障害治療プログラムのテキストを使い、物質依存のメカニズムや物質の心身への影響などを学習するとともに、生活を振り返りながら薬物を使いたい気持ちへの対処についてともに考えます。

グループセッション 木曜(祝を除く) 13:30~14:30 変化のステージモデルという物質使用障害のグループ治療に基づくセッションをしています。グループワークをとおして自らの思考や状況について認識を深め、行動や態度などについて学習します。

【家族・知人向け】ご要望に応じてワークブックを用い、薬物依存についての知識を深め薬物依存症者への対応方法について考え、学ぶことで本人の回復や疲弊している家族がこころの健康を取り戻すことをめざします。



やはり、退院されて地域での生活を送られている姿を見ること。退院だけがゴールではありませんが、入院という一番しんどい時に会った方々だからこそ、退院してその方らしい生活をされているお話を聞かせてもらおうと、とてもうれしいです。

ー支援をする上で、一番大切にしていることはどのようなことですか？

病院の中で、唯一の福祉職だという視点を忘れないことです。病院にいと、どうしても医療的な視点で見がちな自分に気づきます。

先生や看護師さんと協力しながら、お互いの得意分野を尊重しつつ、PSW の役割である生活者としての視点、権利擁護の視点を大切にしたいと思っています。

ー今後の抱負について教えてください。

自分自身が和歌山の社会資源の一つになれるように！というのは、まだまだ遠い目標ですが、まずは「あの人につなぎたいな」と思ってもらえるような人材になれるように、成長していきたいです。

「和歌山の社会資源に 湊標(みおつくし)」。私の名前もかけてみて、抱負とさせていただきます(笑)

ー次の方のご紹介をお願いします。

和歌山県立こころの医療センター精神保健福祉士の、坂本幸子さんを紹介します。

お互いに和歌山県で働き始めて二年目ということで親近感を抱いており、その安心感と頼りになる仕事ぶりに、いつも助けてもらっています。坂本さん、よろしくお祈りします☆

編集後記

夜長な季節に、普段より満月が大きく見えるウルトラスーパームーンが話題になりました。月は宇宙から見ると地球に対して楕円形を描いて動いているため、地球との距離が最も近くなる時に大きく見えるそうです。あいにく天気が悪くて満月は見られませんでした。普段何気なく見ている月を宇宙から見るという普段と違った視点でみる機会になりました。